教養講座 地元学を考える

第百三十七回「地元学を考える」（二〇一五年五月二三日開催）

「戦後七十周年 福島の空襲」

講師　紺野　滋さん

講師・紺野滋氏の福島の空襲についての講演会がありました。太平洋戦争が終戦七〇年となり、戦後間もなく誕生した人も七〇歳となり、戦争とは、最早歴史の中に有り、生きて体験した人々が僅かになってしまいました。七〇代後半の私たちが微かな記憶と体験を、次世代に継承して、子や孫の時代の平和な日本にしなければならないと思いました。

当時、福島の上空も飛行機が毎日のように轟音とともに通過していました。多分仙台や郡山の往復だったと思います。福島県は郡山だけが空襲があったと幼心に思っていましたが浜通りの方も多くの被害があった事は、今回の紺野氏の講演で、はっきりとわかりました。やはり戦中・戦後の歴史は、正しく伝えなければ……と思います。

又、福島市でも渡利地区の一部の人たちだけが記憶している空爆があったことも知ってほしいと思います。世界戦争は大きい事ですが、小さな地域に起きた空爆も大事件だったのです。原爆の予備作戦としてもあの一発落弾は恐怖そのものでした。いまでも消えることはありません。

今回の講師・紺野氏の講話は日本中の若人にもぜひ聞かせてほしいと思います。七〇年間戦争がなかった日本、これからも平和の日本であることは、今の若い人たちに、戦争の恐ろしさ、空の上から爆弾が降ってくる恐ろしさを知ってほしいと思います。

今回の感想は、長年に渡りシャロームの監事を務めてくださった高田英子さんに寄せていただきました。ありがとうございました。

教養講座 地元学を考える 第百三十九回 予告

メキシコのアート教育の実情と、日本との比較について

＜講師＞保住将文さん（彫刻家、メキシコ合衆国チャパス州立芸術科学大学准教授）
＜日時＞2015年7月25日（土）　13：30～15：00
〈会場〉まちなか夢工房２階　〈参加費〉500円

＜講演内容＞
保住さんは、彫刻家として世界各国数々の展覧会に作品を出品されてきました。
現在はメキシコを中心に活動されており、メキシコの文化と日本の文化の違いを石の彫刻の比較から研究なさっています。
今回は、アート教育にも尽力されている保住さんに、メキシコの文化庁からの助成により行われた中学生たちとのコラボレーションについて、DVDと写真を見ながらご感想などを交えてお話をいただきます。

＊参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出欠のご連絡をいただければ幸いです。
(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)

青梅の杜リフレッシュプログラム・参加者募集中！

「青梅の杜 リフレッシュプログラム」は参加者を随時募集しています。下記QRコードから詳細情報をご覧いただけます。金額負担が殆ど無く、充実した内容のプログラムです。小さなお子さまがいるご家庭にもぜひご紹介くださいね。みなさまのご参加をお待ちしております！

●日程　2015年5月～10月までの各月1回実施
③7月24日（金）～26日（日）　④8月28日（金）～30日（日）
⑤9月25日（金）～27日（日）　⑥10月23日（金）～25日（日）

●参加費　お一人様1,000円（中学生以上）

●宗教法人 真如苑 社会貢献基金からの補助があります
・新幹線、高速道路利用に応じた交通費の一部、宿泊費の一部を補助します

※詳細はチラシ裏面をご参照ください

QRコードから本プログラムの
チラシ、申込書をご覧いただけます。

シャロームHPでも
情報を掲載しております
http://www.nposhalom.net

お申し込み・お問合せは
災害支援センター・担当：吉野裕之まで
MAIL：yoshino.shalom@gmail.com
TEL：024-573-8425
携帯：070-5018-0448

愛のメモ帳

暑い日が続くと思うと突然寒くなる。朝晩は結構涼しい。季節は梅雨の季節と言われてきたがどうも怪しい。梅雨が無くなったのではないかと常々思っている。そんな気候のせいか、腰痛が…。

昔から年寄りは、年中どこかが痛い、ここが痛いと病気？の話題となると止めどなく続いていたように思う。そして、健康のために何を飲んでいる、何をやっていると、もう少しましな話題はないのかと思っていたものだ。しかし、還暦も過ぎ、体は確実に年並みに老化は進んでいるようだ。そんな年寄りの仲間入りは、まだまだ、季節のせいにしたい腰痛、老化のせいではないと思いたい自分。

ここ数日、奥さんに毎朝マッサージをしてもらうのが日課となっている。マッサージをしてもらうと楽になり、日中はそしらぬ顔で一日を過ごし家に帰るとほっとする。孫たちも心配して肩をもんでくれる。元気なときには受けられない思いやり、病床利得も良い物である。老いて行く現実からは誰も逃げられない。しかし、その中で若い時代には感じられなかった人の優しさや現実も見えてくる。

（T・O）